

心の残るふれあい交流を！

国際交流活動の手引き



Takamatsu International Association
公益法人 高松市国際交流協会

は じ め に

国際交流というと難しく感じるかもしれませんが、その基本となるのは、生活や文化あるいは言語などの異なる人と人が、一人でも多く知り合い、お互いを理解することによって、友人関係と信頼関係を築いていくことでしょう。

外国から高松を訪れた方々と高松に住む私達が、ホームステイをはじめ、通訳ガイド、交流パーティ、また日常生活の中でなど、その接し方やお付き合いの仕方は異なっても、お互いが知り合ってよかったという思い出が心に残るような、そんな交流をしていきたいものです。

公益財団法人高松市国際交流協会では、「世界に開かれた都市・高松」づくりを目指し、地域に根ざした市民レベルの国際交流の振興を図っておりますが、このたび、市民のみなさんに分かりやすい国際交流活動の手引きとして本書を作成いたしました。

みなさんが、高松と世界を結ぶいわば市民外交の主役として、様々な活動を進める際に参考となる基本的事項についてまとめましたので、これからのグローバルなふれあいづくりに御活用いただければ幸いです。

公益財団法人 高松市国際交流協会

目 次

I	外国人の人とお付き合い	4
II	ホームステイ・ホームビジット	7
1	ホームステイ・ホームビジットとは	7
2	受入れの心構えと準備	8
3	迎えたとき	10
4	滞在中のとき	11
5	お別れのとき	15
6	滞在を終えて	15
7	世話団体さまへ	16
III	交流会	18
1	交流会等の計画	18
2	交流会等の開催	18
IV	通訳・ガイド	21
1	語学ボランティア	21
2	通訳・ガイド等の心得	21
3	通 訳	21
4	ガイド・案内	22
V	国際交流ボランティア登録制度	25
1	登録制度	25
2	ボランティアの種類および活動内容	25
3	応募・登録	25
4	ボランティアの利用	26
5	利用申し込み・紹介	26
6	費用の負担	26
7	事故などの場合	27
VI	参考資料	28
1	国際電話について	28
2	英文手紙の書き方	28
3	国際郵便について	31
4	単位比較表	32

I 外国の人とのお付き合い

1 身近な国際交流

最近、高松でもたくさんの外国の人たちを見かけるようになりました。高松に住む人や、高松を訪問する外国の人たちは、ここ数年大変増えています。

しかし、いざ外国の方とお付き合いすると、いろいろと分からないことや不安、とまどいがあり、ついつい二の足を踏んでしまうことが多いのではないのでしょうか。

でも、ご心配なく。あなたより、知らない土地に来た外国の人たちの方が余程不安なはずです。たとえ言葉が通じなくても、あなたのまごころはきっと伝わります。彼らにとって、出会った日本人のやさしさや親切な行動は、一生忘れないものとなるでしょう。

“こんにちは”“お元気ですか”—こんな風にお隣や近所に住む人、町中でよく合う人などに、声をかけることからお付き合いが始まります。

そう考えれば、日常生活の中で、身近にできる交流活動はたくさんあります。気軽にできることから「まず思い切ってやってみること。」が一番肝心だと言えましょう。

2 普段着の交流

高松に住んだり、訪ねてきたりする人々の多くは、日本に興味を持ち、日本の事を知りたいと思っています。日本人は何を考え、どんな生活をしているのだろうか、滞在期間の間に、できるだけ多くのものを吸収したいと考えています。

従って、出会った日本人のしぐさ、行動、考え方などによって、日本についてのイメージを形成していくわけです。

かといって気負う必要はありません。お客さま扱いをするのではなく、日常生活の中での普段着の交流を心がけましょう。

また、外国の人からいろいろな事を学び、吸収するよい機会でもあります。お互いに学びあい、国境を越えた友人としてお付き合いができることは素晴らしいことです。

3 習慣等の違い

国や民族によって、風俗や習慣、文化は異なるものです。この違いは、どちらがいいとか悪いとかの問題ではなく、違いを理解し、認め合うことに意義があるということ認識し、いろいろな国の人と楽しみながら交流を行いたいものです。

また、エチケットとされることや、個人によっては、嫌がる行為などもあります。

ここでは、不必要な誤解やトラブルを避けるため、習慣等の違いやマナーとされることについて、そのいくつかを紹介します。(もちろん、個人差はありま

す。)

◇失礼な仕種

*一般的に、体に触れたり、指をさしたり、ジロジロ見たりするのは失礼にあたります。

*イスラム教国、タイ、インドなどでは、「こどもの頭には精霊が宿っている。」と信じられ、頭をなでられることを嫌います。

*タイでは、足を組むのは尊敬の念がないと受け取られます。

◇お祈り

*宗教上の理由からお祈りをする人もいます。お祈りをしているときは、静かにしているのがよいでしょう。

◇左手は不浄

*イスラム教国、インド、タイなどでは、左手は不浄なものとしてされています。

◇握手

*一般的に、握手は、相手に求められた時にだけ応じるようにしましょう。男性から女性に求めることや、左手で行うのは失礼にあたります。

*日本人は、おじぎの習慣が身にしみついているため、握手の際もつい腰を曲げがちです。外国の人にとって腰を曲げることは卑屈のシンボルと考えられています。

握手は、腰を伸ばして、しかも相手の目をじっと見ながら行いましょう。

◇食事等

*13 ページを見て下さい。

◇紹介

*同性の人同士を紹介する場合には、先に年下の人を年上の人に、あるいは下位の人を上位の人に、自分と同じグループの人を相手に紹介するのが原則です。ただし、男性と女性を引き合わせる場合には、必ず男性を女性に先に紹介するのが礼儀です。

◇ドアの手おさえ

*欧米では、必ず先に入った人は後に続く人のためにドアを手で押さえてあげるのがマナーになっています。

◇約束の時間

*約束の時間は必ず守るようにしましょう。無用のトラブルを避けるためにも、不用意に相手を待たせることのないように気をつけたいものです。止むを得ず待たせた時は、必ずおわびの言葉を言いましょう。

◇たばこ

*たばこを吸わない人が増え、喫煙を嫌がる人も多ようです。「吸ってもいいですか。」と確かめることが大切です。

*一般的に、欧米では、食事中的喫煙は、エチケットに反するとされています。

◇写真

*写真を撮られるのが嫌いな人もいます。「撮ってもいいですか。」と一言声をかけてからにしましょう。身振りでも分かります。

◇聞かない方がよいこと

*外国の人が大人なら、特に女性の場合は、年齢とか結婚しているかなどは聞かない方がよいでしょう。

*本人の仕事の給料なども聞かない方がよいでしょう。

4 率直さと敬意

日本人同士では、あらゆる場面で微笑をたたえて人付き合いを円滑に進めるといふ習慣がありますが、外国の人が相手では、場合によっては、それを意味のない笑いと受けとめられ、誤解を招くこともあります。特に、自分の非を認め詫びるときや相手に注意を喚起するときなどに笑みを浮かべると、真剣でないと思われる信頼感を損なうことにもなりかねません。もちろん心のこもったあたたかい微笑は、世界共通の素晴らしい贈り物です。

また、外国の人から受けた質問で答えが分からないときは、「分かりません。」、答えに自信のないときは、「私はこう思います。」とか「私はこう聞いています。」など、その都度、質問に対して何らかの返事をしましょう。他方、こちらに何か疑問点があるときは、恥ずかしがらずに尋ねてみましょう。

ただし、真剣な議論の場合は別として、単に軽々しく相手の国や文化を批判したりするのは厳に慎みましょう。皆それぞれ自国に対する誇りを持っています。また、相手の宗教や思想・信条にむやみに干渉するのも避けましょう。

相手の国やその文化を尊重する心であれば、自然に態度に表れて交流は必ずうまくいくでしょう。

5 決めつけは禁物

私たちの心の中には、ややもすると外国の人々についての固定観念が見受けられます。外国の人はこうだと思い込んでいたり、日本的なものにはなじまないだろうと決めつけていたりする場合はよくあります。現実には、そういった物差しに合わない人にもたくさん出会います。また、外国旅行から帰ってきた人で「私が見たところはこうだった。だからあそこはこうなんだ。」と自分が見聞きしたことがすべてだと決めてかかる人がいます。人によって視点は違いますし、またその時によって状況も異なるものです。その経験は貴重なものですが、決してそれがすべてではないということを念頭に置いておきましょう。

6 息の長いお付き合い

せっかく外国の方と仲良くなっても、お別れしてから交流が途絶えたのでは残念です。お互いに手紙を出しあったりして、息の長いお付き合いをしましょう。

ただ、お世話になった後でも、礼状を出す習慣のない人もいますので、礼状が来ないからといって、必ずしもてなしに不満があったということにはなりません。心に残る人で、先方からなかなか便りが来ない場合は、こちらから近況を知らせるのも一つの方法です。

*英文手紙の書き方 (28 ページ)、国際郵便について (31 ページ)

Ⅱ ホームステイ・ホームビジット

1 ホームステイ・ホームビジットとは

家族は、その国の風俗や習慣など文化を色濃く有する場の一つであり、外国から来た人が滞在や、訪問することは、その国の文化を身をもって体験できる最も有効な手段と言えるでしょう。

これは、受入家庭にとっても同様に、外国の方の受入れを通じて、日常気つかない様々なことを学び取ることができます。

(1) ホームステイ

ホームステイは、日本の文化や生活に興味ある外国の人が、普通の家庭に泊まって、自由にくつろいだ時間をその家庭と一緒に過ごし、食事をしたり、おしゃべりをしたり、外出したりしながら家族ぐるみの交際をすることです。

ホームステイの期間は様々です。1泊の場合もあれば2～3泊あるいは1週間程度の短期ステイから、1カ月・半年・1年以上の場合もあります。普通は、1～2泊から1週間前後が多いようです。

短期のホームステイと長期間滞在するホームステイとでは、受入家族（ホストファミリー）の心構え、注意事項も異なってきます。

最初は、短い期間で、費用負担も軽い方法で体験してみることをおすすめします。

(2) ホームビジット

ホームビジットは原則として食事なしで、短い時間を家庭でいっしょに過ごし、日本の家庭生活を紹介し、家庭とのだんらんを通じて日本人の日常生活に接してもらおうというものです。

ホームステイまでは受け入れられない家庭や、はじめて外国の人を迎えるのに不安を感じている方でも、無理なく受入れができるでしょう。

ホームビジットでは、ふつう昼食や夕食時間を避けて2～3時間お茶を出す程度の接待をするだけのものです。

この手引きでは、ホームステイの受入れを中心に記述しますので、ホームビジットについては、ホームステイの場合を参考に受入れをしてください。

(3) 費用

ホームステイ・ホームビジットは、相互理解を深めるために、善意と協力と感謝の心によって行われるボランティア活動です。むやみにお金をかけることは好ましくありません。滞在・訪問中は、できるだけお金をかけずに、有意義なプログラムになるよう心がけたいものです。

費用のことは、誰が負担するのかをはっきりさせておきましょう。市内電話やちょっとした移動の交通費、食事代はホストファミリーが負担しても、外国への電話代や本人が買った品物の代金、本人が希望したプログラムでかなりの経費が必要な場合は、当然本人の負担であることを了解してもらい、支払ってもらいましょう。

特に、滞在期間が長期に渡るような場合は、本人と協議のうえ、食費等の実費負担について取り決めることも必要でしょう。

2 受入れの心構えと準備

(1) 一般的な心構え

① 普段の生活のまま

受入れに当たっては、「世話をしてあげるのだ。」とか、「外国からのお客さんを迎えるのだ。」といった特別の気持ちではなく、あくまで普段の生活のまま、家族の一員として、訪問者を迎えてください。

訪問する外国の人の多くは、日本人の日常生活の体験を望んでいます。

② 住宅の環境

ホームステイ・ホームジビットに積極的になれない理由の中に、住宅の環境をあげる人がいますが、これも日本人が心配する程、訪問者は気にしていません。日本の普通の住宅で生活をしていただければいいのです。

ただ、長期間のホームステイの場合には、個室を用意してあげた方がよいでしょう。

*大きな家でなくても大丈夫です。

*マンションやアパートでも十分です。

*ベッドやシャワーがなくても構いません。

*トイレは洋式でなくても構いません。

③ 家族全員がホスト

訪問者にしても、日本の家族を訪れ、また民泊するという機会はそんなに多くないでしょう。期待とともに何がしの不安を抱いているものです。訪問者の不安を解くためにも家族全員で温かく迎えてください。

ホストファミリーの中に、一人でも受入れに乗り気でない人がいますと、自然に相手に分かり、お互いに気まずい思いをします。外国の人を受け入れること、歓迎することを家族でよく話し合い、それぞれの役割や協力体制について家族全員が理解しておくことが、受入れを楽しくする大切な条件です。

④ 相手の習慣、人格の尊重

訪問者の育った環境で培われた習慣や振舞いが、日本のものと異なることがあるかもしれません。食事や宗教など、受入家族として許される範囲のものであれば、それを尊重するようにしましょう。

また、家族の一員として受け入れたにしても、過度の押付けをしたり、個人の生活に立ち入った質問などしたり、相手の人格を損なわないよう配慮しましょう。

受入家族として守ってもらいたいルール、訪問者からの要望などを初めに話し合って、確認し合うことがトラブルの回避につながります。

⑤ 言葉は一手段

ホームステイ・ホームジビットの受入れに際し、最大の不安点は言葉の問題でしょう。訪問者が話す言葉をお話せるに越したことはありませんが、言葉は意思疎通の一手段ですから、上手下手を気にせず、キーワードの単語をならべたり、身振り、手振りをまじえたり、懸命に対話をしようとする態度を示してください。話す意欲を表に出せば、相手も意味を理解しようとしてくれますし、その積重ねが、お互いの親近感を高めることにもなるでしょう。

どうしても分からない時は、紙に絵を書いてもらうとか、辞書から必要な言葉を選び出してもらうのも一つの方法です。

ただし、イエス、ノーの意思表示は常にはっきりするようにしましょう。

特に、お金に関することや行ってほしくないことは、あいまいなままにしておくトラブルの原因ともなりますので、最初に確認しましょう。

(2) 事前の準備

訪問者はあくまで日常生活の中で家庭に受け入れるものですから、その意味では特別の準備を必要とするものではありませんが、訪問者の受入れを円滑に進めるために心がけるべき事柄をあげてみましょう。

①情報交換

あらかじめ受入家庭、訪問者の両方がそれぞれの情報を交換しておけば、受入計画も円滑に進むでしょう。

情報は多いのにこしたことはありませんが、情報が少なくても、あまり神経質になる必要はありません。

<例>受入家庭の情報

氏名、家族構成、連絡電話、滞在は個室か同室か、ベッドか布団か、シャワーはあるか、トイレは洋式か和式か、外国語の会話ができる家族がいるかどうか、ペットを飼っているかなど。

訪問者の情報

国籍、氏名、年齢、性別、職業（学年）、宗教、食習慣（特に食べられないもの）、話せる言語、ホームステイの目的、喫煙など。

②訪問者の国や高松の情報収集

訪問者の出身国や高松のことなどについて、ある程度勉強をし、情報を収集しておく、話題が広がり訪問者と打ち解けるのに役立つでしょう。

対外接触の多い外国の人がよく指摘するのは、日本人が日本について知らない、または知識があいまいだということです。訪問者は日本の様々な点に興味を持って来ます。日頃から日本の事柄に注意を払い、知識の整理をしておくといいでしょう。また、訪問者の情報から話題になりそうな事について自分が不得手なときは、詳しい人を近所や友人の中に見つけておき、当日に協力を仰ぐ方法もあります。食後のひとときのホームパーティとして協力者を招き、いろいろな話題に対応しながら楽しく過ごしている家庭もあります。

③受入スケジュール

受入れのおおまかな日程表を作成しておき、訪問者が来訪した際に、相手の希望も取り入れながら、さらに具体的な日程を詰めていけば、お互いに安心し、また有意義なプログラムを進めることができるでしょう。

せっかく来たのだからと、短い滞在期間中、市内や県内の名勝、旧跡を引っ張り回すのは考えものです。

歴史的建造物や文化財などから日本の伝統や文化を知ってもらうことも大切ですが、それに終始しては心の通いが少なく、別れた後にむなしさを感じます。過密スケジュールでは、双方とも疲れ切ってしまう。

大歓迎の気持ちも分かりますが、スケジュールには、のんびりと生活そのものを見せる静かな時間を作ってください。

④部屋

基本的には、提供できる個室があれば訪問者に専用室を用意したほうがよいでしょう。特に訪問者が大人、もしくは滞在期間の長い場合は、個室が必要と思われるかもしれません。ただし、小・中学生などで、同世代、同性の子どもがいるときなどは、部屋を共用することにより、異国での寂しさがまぎれたり、仲良しになつたりしますので、訪問者の到着後、本人の希望にあわせて調整してください。

また、訪問者の服等を収納する洋服ダンスの一部やハンガーなども確保しておいておくといよいでしょう。

⑤身の回り品

洗面用具やパジャマなどは、訪問者自身が持参するのが一般的ですので、準備する必要はないと思われるかもしれませんが、できればタオル、バスタオルなどは用意しておくといよいでしょう。

⑥もてなしのアイデア

*和室の場合には、椅子を用意してあげましょう。

*食卓や居間など、人の集まるところに辞書や家族のアルバムを置いておくと話題づくりなどに便利です。

*童話や民話の絵本、日本文化の写真集なども話題づくりに便利です。

*歌や楽器演奏も楽しいもてなしに役立つでしょう。

*ゆかたや着物をきせてあげるのも喜ばれることでしょう。

*一人で散歩するのに便利です。自宅付近の簡単な地図を作っておくとよいでしょう。

3 迎えたとき

(1) 出迎え

荷物を持ってあげる場合は、自分のものに触れられるのを嫌う人もいますので言葉や身振り手振りで聞いてから手を出すようにしましょう。

車に乗る場合で、運転手が別にいるとき（タクシーなど）は、運転手の後部の座席が最上席、次が助手席の後部、そして助手席という席順になります。自分で運転する場合は、運転手と話ができる助手席が最上席になり、次が運転席の後部という席順になります。要するに常に相手と話すことができるようにすることがポイントです。

(2) あいさつ

まずは、あいさつは、自己紹介からはじまりますが、相手の目を見て微笑みながら言葉に出して言いましょう。「はじめまして、よくいらっしゃいました。」第一印象が肝心ですから、これはしっかりやりましょう。訪問者の国の言葉で言えなくても構いません。世界にはいろいろなあいさつの仕方があります。私たちは日本人として自然な形のあいさつをしたらよいでしょう。

黙って頭を下げ、にっこりするだけというのは感心しません。とっさに言葉が浮かばなければ、日本語で「よくいらっしゃいました。」で結構です。

言葉があれば相手は安心します。にっこりとした表情で言葉の意味を察してくれるでしょう。大切なことは、「お会いできてうれしく思っています。」という気持ちをはっきり表現することです。

(3) 家族の紹介

家庭に迎えると、まず家族の紹介をしましょう。家族全員が揃っていない場合は、家族が帰宅するごとに、すぐに紹介しましょう。訪問者にとって、一度

に家族全員のことを覚えるのは大変ですから、家族の名前や呼び方、年齢、学年、仕事の内容、趣味・特技などを書いたメモを渡してあげると喜ばれます。

また、相手の呼び方も聞いてあげると、親近感が増すでしょう。

(4) 家の中の案内

家族の紹介が済めば、なるべく早いうちに家の中を案内しましょう。寝泊りする部屋、洗面所、トイレ、浴室、食事の部屋などを丁寧に見せましょう。

ただし、入ってほしくない部屋や触ってほしくないものなどがあるときは、この際にはっきり言ってください。

特に、夜間の照明、スイッチは気をつけて教えておいてください。

また、家の中を案内する時に、玄関では靴を脱ぐ、畳の部屋ではスリッパを脱ぐなどの日本の習慣も教えておきましょう。

◇部屋

部屋に鍵がかからない場合は、日本の家庭ではそれが普通だということを説明しましょう。できる限り、プライバシーが保たれるよう気を配る必要があります。

◇トイレ

和式トイレの場合、どちらを向いて使用するのかを説明しましょう。

◇浴室

家族が順番に同じ湯に入るので、浴槽の外でからだを洗い、湯を抜かないという日本式の使い方を説明してください。

一緒に生活する場所をひととおり案内した後は、訪問者には、泊まる部屋で30分なり1時間なり少し休んでもらいましょう。訪問者も着替えたり、荷物の整理をしたりするため一人になる時間が必要ですし、迎える側も食事やその他の準備にかかる必要があるでしょう。

(5) 家庭内のルール

それぞれの家庭内での生活時間などのルールがあれば、あらかじめ説明し、訪問者の意見も聞きながら、受入家庭として無理のない範囲で調整してください。

<例> *食事は何時ごろ

*入浴は何時ごろ

*門限は何時ごろ

*就寝は何時ごろ

*おなかがすいた場合、のどがかわいた場合どうすればよいか

*ごみはどこへまとめる

4 滞在中のとき

(1) 家庭での生活

①声をかける

受入家庭は、普段のままの生活をすればよいのですが、何も言わずに家族が思い思いのことをしていると、訪問者は疎外されているようで、どうしていいか困ってしまいますから、家族一人ひとりが訪問者を受け入れていることを意識して、適宜声をかけてあげましょう。

ただ、訪問者に、何もかもこうしなさいと指示するのではなく、選択の余地を与えてあげるようにしましょう。要は思いやりの心遣いが大切です。

②会話を楽しく

家族みんなが揃って会話の輪に参加することが、訪問者への最大のもてなしです。また、話題が豊富なほど会話は楽しいものになります。沈黙の時間をできるだけ少なくするために、訪問者の国の文化や習慣など事前に予備知識として仕入れていた情報をもとに、いろいろと質問を用意しておくことも一つの方法です。自分の関心のあるテーマについて訪問者の意見を聞いてみるのもよいでしょう。

質問の仕方も、漠然とした質問は避け、具体的かつ小さなテーマで質問するよう努めましょう。また、イエスカノーで答えてから説明のできるような質問のほうが和やかな会話となります。

会話の主役は、家族みんなであり、語学の堪能な人は、子どもから老人までみんなが会話の輪に加われるよう気を配りましょう。訪問者の質問にも、ひとりの人が答えるのではなく、家族全員が一緒に考え、一人ひとりがそれぞれの答えを出してみるよう努力しましょう。

訪問者の話し方が早すぎたりして、話の内容が分からない時には、もっとゆっくり話してほしいと言いましょ。さらにジェスチャーをしたり、紙に書いてもらえばよいでしょう。

③家事の分担

家族の一員として受け入れるのですから、ある程度家事を分担してもらおうと、訪問者の方でも家族として認められていると感じ、喜ばれることもあります。

特に、ホームステイが中・長期にわたる場合は、受入れを始めた頃に、率直に頼みましょう。

◇掃除

ベッドを使用するのであれば、ベッドメーカーを、布団の場合は、敷き方とたたみ方を説明して、自分でしてもらうようにしましょう。

部屋の掃除もお願いしましょう。

◇洗濯

自分のものは自分で洗濯する事にしましょう。特に下着や靴下の類は自分で洗うべきものです。洗剤や用具の置場も決めて、済んだら元の所に返してもらうようにします。干す場所もよく話しておきましょう。

服をクリーニングに出す時は原則として本人負担にしましょう。

◇食事の準備・あと片づけ

本人が手伝うといえ、一緒に手伝ってもらうのもよいし、料理の作り方を説明しながら一諸に作るのもよいでしょう。慣れれば、一緒にマーケットに行き、自由に材料を買わせて、自国の料理を作ってもらうのも面白いと思います。あとかたづけ、皿洗いも適宜頼みましょう。

④電話

結構トラブルの原因になりやすいのが、電話です。電話料金はあとから請求がきますので、外国の人が帰ってから請求書を見てびっくりということもよくあるようです。

国際電話、長距離電話は、できるだけ、公衆電話かコレクトコール（料金先方払い）でかけるとか、家族がいる時に料金の支払い方法を明確にしてかけて

もらうようにしましょう。また、公衆電話の場所、ダイヤルの仕方、テレホンカードのことも教えてあげるとよいでしょう。

*国際電話について

28 ページを見てください。

⑤プライバシーを大切に

受入家庭として、あれこれと構ってあげたくなるものですが、訪問者も、国の家族へ手紙を書いたり、何もしないでくつろいだりといった自分一人の時間も必要です。構いすぎて疲れさせないよう気をつけましょう。

また、訪問者に提供している部屋に入る際は、必ず、ノックをするか呼びかけてください。特に、訪問者がいない場合は、持ち物に手を触れないよう気をつけましょう。

(2) 食 事

普段の手作りの家庭料理で家族と一緒に楽しく食事をするのが最大のもてなしとなります。

ただし、食事の献立については、宗教や習慣で食事に制限のある場合もありますので、事前の情報をもとに、本人の確認を得たうえで、できる範囲で対応してください。

もし、出した料理の中で訪問者が食べられないものがあるときは、自由に避けてもらいましょう。また、アルコール飲料の無理強い禁物です。

いずれにしても、食事は会話を楽しみながら時間をかけてしてください。

☆注意したいこと

①食事などの制限については、一般的に次のようなことに注意する必要がありますが、これらについても個人差はあります。

*仏教徒の一部およびヒンズー教徒

- ・牛肉を食べない。
- ・ヒンズー教徒はアルコール飲料を飲まない。

*イスラム教徒

- ・豚肉を食べない。
- ・断食（ラマダン）の間は日中食事をとらない。（日没後はよい。）
- ・アルコール飲料を飲まない。

*ユダヤ教徒

- ・豚肉、エビ、カニを食べない。

*菜食主義者（ベジタリアン）

- ・肉類を食べない。

（注）これらの場合、その加工品も食べられません。

②暑い国では辛いものが好きな人が多いのですが、個人差がありますので、食卓に香辛料を置いて、好みに合わせて自分で加えてもらいましょう。

③デザートは、ヨーロッパの人のなかには、食事の皿を全部片付けてでないとい食べられないという人もいます。

④食事のたばこは、吸う前に一言断りましょう。

(3) 就 寝

ホームステイ初日は、訪問者は緊張して疲れていることが多いようです。お互いに疲労を翌日に残さないために、訪問者との会話も早めに切り上げて、よく休んでもらいましょう。

ベッドでも結構ですが、外国人の中にはむしろ布団に寝てみたいという人もいます。布団の場合は、敷き方、たたみ方を説明しましょう。また、寒いときの予備の毛布などを横に置いておくとよいでしょう。

おやすみを言う際に、翌朝の朝食時間と場所も教えてあげてください。

(4) 外出

一緒に出かけるときは、豪華でお金がかかる場所に行かなければならないと考える必要はありません。例えば、普段に家族で出かけるようなレストラン、デパート、公園などに行った方がよいでしょう。典型的な日本の家族の生活を紹介することがよいのです。

季節によっては、花見、ピクニック、みかん狩、落葉ひろいなど、自然に親しむレクリエーションに出かけるのもよいプランです。

観光地などを案内する場合については、22 ページのガイド・案内の項を参考にしてください。

1～2泊の短期のホームステイの場合には、多くの時間を観光に割くのではなく、訪問者と一緒にいるようにして、家族の雰囲気味わわせてください。

また、ホームステイ期間中、時には一人で外出させてあげるのも、よい経験になるでしょう。この場合には、次のようなことに気をつけてあげましょう。

* 家から駅や目的地までの地図を書いて渡しましょう。特に、曲り角では目印となるものを書いておきましょう。

* 鉄道やバスの時刻表を渡して、大体の帰宅時間を決めておくのがよいでしょう。

* 自宅の電話番号をメモし、迷ったときは電話をしてもらおうよう、指示しておきましょう。

* 迷ったときは日本人に見せるよう次のような紙を渡すのも方法です。

私は_____ (名前) _____ です。
道に迷いました。
すみませんが、次のところへ電話して私の現在位置を説明してください。
よろしくお願いします。
TEL : _____
名 前 : _____

(5) 病気やけがのとき

旅先では、環境の違いや睡眠不足などで体調をくずしがちになります。訪問者の顔色や食欲などに気をつけておきましょう。

もし、ホームステイ中に訪問者の具合が悪くなった場合や、けがをした場合は次のようなことに気をつけてください。

単なる疲れのような場合は、予定していた外出を取り止めて休んでもらうことが第一でしょう。

市販の薬は日本人の体を基準にしているため、体質に合わなかったり、効きすぎたりすることがあり、また、よく分からない薬を飲まされるのは、不安をつのらせたりします。本人が常備薬を持参していない場合以外は、薬は使用しないほうがよいでしょう。

熱がある、痛みがある、下痢をしているなどの症状がある場合には、受入団体やあっせん団体の責任者に連絡してください。そして、医師に診てもらってください。

外国の人は、短期間滞在の場合は、健康保険には加入していませんから、診察料はすべて現金払いになります。本人が払えるようなら本人に払わせればよいのですが、そうでない場合は立て替えて領収書をもっておいってください。ほとんどの訪問者は旅行者向けの傷害医療保険をかけていますので、保険会社に連絡をとってください。領収書、病院の診断書があれば後で支払われることになります。

その後の処置は受入団体の指示を受けてください。

そうした事態がおこらないように、ホームステイの間は訪問者の体調に気を配るとともに、各種の体験学習やレクリエーションの際にも、けがのないよう十分に気をつけましょう。

また、訪問者が事故にあった場合は、まず、警察に届け、けがが軽い場合でも、念のため病院へ連れていってください。保険会社や受入団体、あっせん団体への連絡も忘れないようにしましょう。

自家用車を使用する場合も少なくないと思いますが、交通事故の起きないよう細心の注意が必要です。

5 お別れのとき

(1) おみやげ

おみやげに関する考え方は各国様々で、贈ったからといって、必ずしもこちらが思うほどに感謝されないこともあります。

訪問者の受入れそのものが十分なもてなしとなっていますから、訪問者から贈られたものがなければ、原則的にはおみやげは不要といえます。どうしても渡したい場合は、できるだけ小さくて軽いものを選びましょう。家族全員と撮った写真や手作りのものもいい思い出になり喜ばれるでしょう。

(2) お別れ

お世話になったお礼の気持ちを表すため、訪問者の方から家族を夕食に招待したいとか、掃除を手伝いたいなどと申し出ることもあります。このときは気持ちよく申し出を受けて、最後をきれいに締めくくりたいという訪問者の思いをかなえてあげてください。

いよいよ受入家庭を離れる際、忘れ物がないか十分に確認しましょう。別れた後で発見した場合、送付するのに大変な手間がかかります。

駅などまで見送りをしない場合は、道に迷わないよう行き方をよく教えてあげてください。

6 滞在を終えて

(1) 別れた後で

外国の人を家庭に迎えることは、受入家庭にとって異文化体験の貴重な機会となったはずです。ホームステイ・ホームビジットの受入れを通じて、感じたこと、発見したことなどについて、家族全員で話し合ってください。今後の受入れのための新たな工夫も生まれることでしょう。

(2) 末長い交流を

別れる時に、住所や電話番号を交換し、その後手紙や、Eメールなどで連絡を取り合うと、いつまでも交流することができます。

ホームステイがきっかけになって子供達が文通を始めたり、いつの日か相手の家を訪れたりすることになるかもしれません。交流を続けることは非常に楽しいことです。

7 世話団体さまへ

ホームステイ・ホームビジットを有意義で楽しいものにするためには、訪問者とホストファミリーの仲立ちをする団体や世話人の役割も決して小さくありません。

世話人の配慮不足で、双方にあらぬ誤解や不信が生まれたりすることのないよう、また、訪問者と受入家庭の間の希望や条件がかなえられ、お互いに満足できるものとなるよう、特に心がけたいことをあげてみます。

①ありのままの生活体験

ホームステイ・ホームビジットの意義は、日本人のありのままの家庭生活を知ってもらうということですから、家の構造や設備などに条件を付けるのは本来の趣旨を曲げてしまうほか、多くの家庭から外国の人との交流の機会を奪ってしまうこととなります。

外国の人にとっても、異なるからこそ楽しいし、日本人の生活や文化について深く考え、理解するきっかけにもなるのではないのでしょうか。

(8ページ参照)

②事前の情報提供

受入家庭にとっては、どんな背景を持った外国の人をお世話するのか、また訪問者にとってどんな職業や家族構成の家庭にお世話になるのか気になるどころです。

世話団体は、可能な限り双方の情報を把握し、事前に伝えておきたいものです。(9ページ参照)

③病気・けが

環境や食事の変化、ハードスケジュールなどで病気になったり、けがをしたりはしばしばあります。

大事に至らない場合が多いにしても、病気や事故の場合の対応策を受入家庭にきちんと伝えておく必要があります。

ホームステイ期間中の病気や事故の処理や責任は、世話団体に帰すると考えておくべきでしょう。

訪問者が海外旅行保険を掛けているかどうかの確認をし、入っていない場合は、国内での病気や事故に備え保険を掛けるといった配慮も必要です。

また、ホームステイ中に病気や事故が起こった場合の連絡体制を明確にし、受入家庭が冷静に対処できるよう情報と指示を与えることも大切です。(14ページ参照)

④費用

ホームステイ・ホームビジットの受入れは、ボランティア活動の一環として行われるものです。

日常生活に触れてもらうという趣旨で家庭滞在をする分には、受入家庭の負担も過重にならずに済みますが、家庭の計画にはなかった観劇や名所旧跡の見

学などの希望が出て来ると出費もかさんできます。

計画になかったプログラムや経費のかさむ要望を出した時は、交通費や入場料など必要な経費は自己負担するように伝えること、また、訪問者の要望は、無理して全部かなえる必要はないことを受入家庭にあらかじめ伝えておくのも世話団体の仕事です。(8ページ参照)

Ⅲ 交 流 会

1 交流会等の計画

外国から来ている人々との交流会等の開催は、遠く故郷を離れた人が高松への親しみを増す機会となり、また、日本と世界の国々との相互理解を深める機会にもなります。こうした交流会は、パーティ、ハイキング、交歓スポーツ大会、シンポジウムなどの形でよく実施されています。

交流を図るための行事を行うときは、せっかくの努力が不満や誤解を残す結果にならないように、計画段階から十分に配慮していくことが望まれます。

☆注意したいこと

①行事によっては、「外国の人を招待する。」という目的だけが先に走って、どのような方法で進めるのかとか、行事の内容とかが不明確なものもあります。外国の人やお世話する人などが安心して参加できるように、あらかじめしっかりとプログラムを組み、きちんとした案内書などを作成しておくことが望まれます。また、案内書には、集合場所、交通、服装などについても明記しておきましょう。

②留学生や研修生などは、勉学のスケジュールが多忙な人も多いようです。

交流会等の計画が、クリスマス時期などに重なる傾向もあるので、開催日時の設定には慎重な配慮が望まれます。なお、特に研修生の場合は、計画の内容と行事への参加について受入企業などの了承を得ておくようにしてください。

2 交流会等の開催

(1) 理解セミナー

在住の外国人からその国の事情を聞く催しがよく開かれるようになりました。外国の方も国から資料を取り寄せたり、日本語で原稿を書いたり、そのための努力をしています。

話す人にとって一番うれしいのは、いい質問がたくさん出ることです。質問によって参加者の反応が分かり、日本理解の参考になります。

質疑応答の時間を十分にとって、講師と参加者が語り合い、心を通い合わせることができたら交流の成果も大きいのではないのでしょうか。

☆注意したいこと

①外国の人が日本語で話をする時、聞き慣れないと大変疲れることもあります。

話をする外国の人の日本語が少し分かりにくいと思われる場合は、地図やスライド・ビデオなどを使ってもらおうとよいでしょう。

②通訳をする場合は、話をする人と通訳とで事前に打合せをしたり、あらかじめ話す原稿を通訳に渡しておいたりすることが望ましいでしょう。

③話をする場にもよりますが、一人だけ招くより複数の方が気楽に参加できてよいようです。

④よい質問は話の内容をさらに深め、発展させる効果があります。質問のための質問、話の内容と関係のない質問、母国に対し失礼な質問にならないよう注意しましょう。

(2) 料理のつどい

交流の手段としての料理講習には、よい点がいろいろあります。①言葉が分からなくてもできる②一緒に協力して作るので親しみがわく③すぐに生活の役に立つなどです。外国の人にお国料理を覚えてもらうだけでなく、一品でもよいから日本料理も教えてあげると喜ばれます。その場合、国へ帰ってから材料が手に入りやすい献立がよいでしょう。

外国人に馴染みやすい日本料理としては、てんぷら・すきやき・鍋もの・酢の物・焼き鳥・おにぎり・手巻き寿司・のり巻き・うどんなどがあります。

(3) 映画のつどい

外国の方の母国の映画やビデオを見ながら語り合うのは、話を聞くだけの場合と違った効果が生まれます。また、映画等のもつ問題提起に沿ってテーマを絞って討論できるので収穫の多いものになります。

(4) 見学ツアー

地元の企業や公共施設、地場製品の生産現場などを外国の人と一緒に見学し、高松をよく知り、理解を深めるとともに、交流を図ろうというものです。

☆注意したいこと

①参加者が多い場合、いくつかのグループに分かれて行動するのは効率的でよいのですが、全員が結果的に同じ箇所を見られるよう、リーダー間で相談しておく必要があります。

②長い距離を歩く習慣のない外国の人もいたりするので、あまり長く歩く行程は避けた方がよいでしょう。

③いくつかの場所を見学する場合、それぞれの名前をおぼえることは外国人にはたいへん困難ですから、漢字・ふりがな・ローマ字を併記したコピーを渡すと、その人達があとで報告書や旅行記等を書くとき役に立ちます。集合場所・時刻なども口頭だけではなく書いて渡すと、行き違いが避けられます。

④写真撮影禁止の場所は、事前によく説明しておきます。

(5) 交流パーティ

パーティといってもいろいろな種類がありますが、簡単なオードブル程度を出すカクテル・パーティ的なものや、食事をしながら歓談をする立食パーティなどがよく行われています。

気軽な気持ちで参加でき、リラックスして楽しくおしゃべりができるようなパーティが喜ばれることでしょう。

☆注意したいこと

①せっかく外国の人をゲストに招いたパーティなどで、日本人だけがグループに固まってしまうなど、なかなか打ち解けない光景もしばしばみられます。参加者の間に対話が進みやすいようなムードづくりをすることも大切です。例えば、全員がネームプレートを付けるとか、一緒に楽しめるゲームを考えると、色紙を渡してサインの交換をするなどの工夫も考えられます。

また、すぐに仲間に入れないような外国人がいたら、そばへ行って積極的に誘ってみましょう。話しかける言葉が分からなければ、心がなごむような表情や身振りによいのです。みんなで、仲間はずれをつくらないように気をつけましょう。

②招待した外国の方々の出身国、宗教、習慣などについて、あらかじめ最小限の知識を得られるよう学習しておく事が大切です。相手に失礼な印象を与えることのないようにしましょう。また、たとえあいさつ程度でも相手の方の国の言葉話すことによって、雰囲気や和らげることができるかもしれません。

③パーティでは、どんな話をしたらよいのでしょうか。まず知り合って最初の無難なところでは目の前にある食べ物の話題です。次は気候、季節の花、趣味、観光地など。

そして相手と話しながら少しずつ話題を自分の準備をしたほうへ進めていきます。コツは目に見えるものを話題にすること。言葉に自信のある人は社会・文化・教育問題など、日頃外国の人が言いたい、聞きたいと思っていた事柄について論じ合えば、どんなご馳走よりもよいもてなしになるでしょう。

IV 通訳・ガイド

1 語学ボランティア

高松に在住、または観光などで訪れる外国の方々が増える中で、外国の方を暖かく迎え入れるとともに、少しでも多くの市民と外国の方々が言葉の制約を超えて、コミュニケーションを図ることができれば実に意義深いことです。

そこで、自分の得意とする語学力を生かし、善意により、市民と外国の方のコミュニケーションがスムーズに行えるよう手助けをしたり、様々な場所で、交通や観光情報の提供や案内などをしたりする語学ボランティアは、大変重要な存在になっています。

市民レベルの国際交流が盛んになるにつれ、通訳、ガイド、翻訳など、ことばの橋渡しをする語学ボランティアの役割は、今後ますます大きくなっていくことでしょう。

2 通訳・ガイド等の心得

語学ボランティアには、一定程度の外国語の能力が必要ですが、本職の通訳、ガイド、翻訳家ではありませんので、言葉のハンディを克服するくらいの外国人への優しい心と国際交流に対する熱意が何よりも大切でしょう。

もちろん、ボランティアとはいえ、通訳、ガイド、翻訳等を通じて、相互の意志が伝達されるわけですから、不用意な発言や間違った言葉の使用は、相手に誤解や不快感を与え、トラブルを招く原因ともなります。とりわけ、初めて日本を訪れた外国人にとって、最初の訪問地の印象がそのまま日本全体のイメージにつながることも多く、通訳、ガイド等に当たる人の責任は重大です。国際交流の担い手の一人としての自覚が必要です。

3 通 訳

通訳を行う場合は、日常会話から学術などの専門分野まで、様々な領域があり、それぞれによって対応の仕方や心構えが異なりますが、ここでは、共通すると思われる事項をとりあげてみます。いずれも、普段からの心がけと実際の体験を通じて、向上の期待できる事柄でしょう。

(1) 国際社会人として

適切な言葉の選択と、話の内容を素早くとらえる能力のほかに、幅広い教養やマナー、親しまれる人柄は、双方の理解度をより深くするものです。責任感を持つこと、時間や約束をきちんと守ることなどの基本的なエチケットに加えて、国際社会人として、明るく、ユーモアを解する心も必要です。

また、ちょっとしたしぐさや身だしなみ、服装などにも気を配りましょう。

(2) 異文化交流の理解者として

言葉には、その言語を使う人の文化が直接関わっています。ただ単に辞書に出ているとおりに言葉を訳せばよいというものではなく、異文化コミュニケーションの諸問題にも注意を払うべきです。そのためには、お互いの言葉と共に、その背景にある文化を理解する必要があります。自国の文化尺度で他国を測ら

ず、互いの違いを認識し、認め合うのが国際人の基本といえます。

(3) 仲介役として

通訳とはコミュニケーションの仲介であり、両者の意志をできるだけ正確かつ瞬時に橋渡しすることですが、そのためには、常に冷静で客観的であると同時に、一方の話したい内容を他方の理解しやすい言葉にかみくだいて伝える能力が求められます。

(4) 雑学者として

通訳には、語学力とともに、雑学というべき幅広い知識、教養などが要求されます。日頃から新聞や雑誌などで情報を得ながら、高松や日本の文化・歴史をはじめ、社会の出来事、世の中の動き、政治経済などの知識を深めておく必要があります。

(5) よき通訳者として

よい通訳をするには、外国語のレベルアップのため、日頃から修練を積み重ねることはもちろんですが、日本語の力もしっかりと身につけておくことも重要です。

また、通訳、説明する内容について、事前にしっかり下調べをし、理解しておく、安心してよい通訳ができることは疑いありません。

4 ガイド・案内

ガイド・案内はそれだけを目的に行う場合と、ホームステイなどの一環としてホストファミリーが行う場合とがあります。いずれの場合も、案内者の考えている案内先と訪問者の希望する見学先を調整することが肝要です。

(1) 見学

訪問者には、自分の職業や専門分野、趣味、特技などから興味や関心を持っている点について学びたい、体験したいという希望があると思います。その場合はできるだけそれをかなえてあげたいものです。

訪問者が特別なプログラムを求めない場合は、名所、旧跡や美術館などいわゆる観光コースをめぐるのが一般的ですが、地域の特色のあるものを紹介するのも喜ばれるでしょう。例えば、特産品の生産現場を紹介し、関係者と話し合ったり製作を体験したり、地域の伝統芸能、諸行事の紹介や参加などが考えられます。

また、あなたが連れていったらよいと思う場所があったら、ぜひ、訪問者に
行きたいかどうか聞いてみてください。

また、自分が一番よく知っている所、説明できる所を選んで連れていくことも一つの方法です。例えば、近くの商店街やスーパーマーケット。ここには私達の日常生活に直結した雑貨や食料品がいっぱいあります。日用品のコーナーや種類の豊富な魚や野菜の売り場には、訪問者が初めて目にするものもあってきっと興味を示すことでしょう。

また、町の活気や人々の暮らしぶりを垣間みることができます。どのような品物が、どの程度の値段で売られているのかが分かり、日本人の暮らし向きについて、実際に自分の国と比較して考えることにもなるでしょう。品物の名前をお互いの言葉で覚えられるのも好都合です。

なにより自分のテリトリー（領域）ですから、準備なしでもそれなりの案内は可能ですし、顔見知りの協力も得られやすいという強みがあります。

(2) ショッピング

帰国のおみやげに日本の伝統的な陶器、和紙製品、遊具など、観光地で買えないものを買うためにデパートなどに案内し、ショッピングをするのもよいで

しょう。

物価の高い日本のショッピングでは、ガイドの適切な情報とアドバイスが必要です。

珍しいものがあつたら記念に買って帰りたいとか、安いものがあつたら…というのは人情ですから、相談されたら率直に教えてあげましょう。

特売などについても、その店の特徴などを教えてあげればたいへん喜ばれるでしょう。

ただ、ショッピングに出かけたからといって、無理に買い物をすすめたり、欲しいものを買ってあげたりするのは考えものです。見るだけでよいこともあるでしょうし、買い物は旅の終わりにと考えているかもしれません。

訪問者の経済的都合もありますし、また、自尊心を傷つけられたと思う人もいるものです。

(3) スケジュール

ガイド・案内などを行うときは、大まかにでも予定を決めてから出かけましょう。スケジュールを立てるときには、どれぐらい時間がかかるか、いくつぐらい見学するかということを考えてゆったりとしたペースで回れる見学プランにしましょう。あれもこれもと欲張って、せかせかと目的地にいて、さっさと回るのではなく、おしゃべりをしながらゆっくり見て歩きましょう。往復にかかる時間も余裕をもって、無理をしないようにしましょう。日本人のペースですべてを決めてしまわないことが大切です。できるだけ希望を取り入れるのが原則ですが、時間がかかりすぎたりする場合や一般参観のないところなどでは、事情を説明して納得してもらい、無理をして見学する必要はありません。

また、いったん決めたからといって、その予定をあくまで守ろうと無理をしないことです。天候の変わることもあれば、体の具合が悪くなることもありますし、訪問者の気が変わることもあるでしょう。気がかわったら、また予定を立ててください。

グループ旅行の人を案内する時は、いくつかのグループに分けたスケジュールを立てると効率的に行動できます。集合時間と集合場所を決め、決められたとおりに必ず着けるように、それぞれが上手に誘導して案内することが大切です。

(4) 案内ガイド先で

神社やお寺が、名所旧跡になっていることがよくあります。日本人は一般に、神道や仏教を特に信じていなくても、神社やお寺に参詣することに不自然さを感じませんが、宗教心の強い訪問者にとっては、異教徒の聖域に足を踏み入れることに、時には強い心理的抵抗を感じる場合があります。

このような場合、神社仏閣の参観を強制したり、礼拝に類する行為を強制したりしないように気を配ってください。

一方、相手の信仰や宗教上の立場を尊重すると同時に、私達の神社やお寺に対する気持ちを尊重するように外国からの訪問者に求めることも忘れてはなりません。

また、見学先で建物の中に入るときに靴を脱ぐ場合や、大きな声を出してはいけないとき、写真を撮ってはいけないときなどは、きちんと訪問者に伝えてください。

場所によっては、日本の歴史的背景を知らないと言明を聞いても訪問者には

全く理解できない場合もあります。このように、日本人を案内する場合と異なり、種々配慮が必要だということを覚えておいてください。

(5) 費用

交通費や見学先の費用について、最初に、はっきりルールを決めておいた方が、お互いに気まずい思いをせずに済みます。

「個人的にかかったお金は、自分で払ってくださいね。」と一言、最初に言うしておくのがよいでしょう。

また、予定を決めるときに、大体どのくらいの費用がかかるか経費の目安を教えてあげると、安心して出かけられるでしょう。

V 国際交流ボランティア登録制度

1 登録制度

公益財団法人高松市国際交流協会では、高松における市民レベルの国際交流活動を進めるため、国際交流に関心を持ち、ボランティア的な活動のできる市民の協力を得て、外国の方々との交流や相互理解、友好親善を深めることを目的として、国際交流ボランティアの登録制度を実施しています。

2 ボランティアの種類および活動内容

①ホームステイボランティア

外国からの来訪者を家族の一員として受け入れ、日常生活の中で親善交流を深めるためにボランティアで民泊を提供するものです。

②ホームビジットボランティア

外国からの来訪者の訪問を受け入れ、家庭で2～3時間程度の歓談を行い、親善交流を深めるものです。原則として昼食や夕食の時間帯を避け、食事や宿泊の提供はしません。

③語学ボランティア

通訳、ガイド、翻訳者としての活動など、語学を活用して親善交流を図るものです。

④一般ボランティア

当協会の主催・共催する事業をはじめ、各種の国際交流事業において、ボランティア的な活動を行い、親善交流や国際交流事業の推進を図るものです。

3 応募・登録

①応募の条件

国際交流への熱意と理解を有している方で、次の条件を満たしていることが必要です。

複数のボランティア活動に応募することもできます。

◇ホームステイ・ホームビジットボランティア

*原則として高松市民

*家族全員の理解と合意が得られ、家族ぐるみで受け入れができる方

*ホームステイの場合は、提供できる最低限の部屋がある住まいの方

◇語学ボランティア

*高松市内および近郊に在住もしくは勤務している20歳以上の方

*一定程度の外国語能力を有している方

◇一般ボランティア

*高松市内および近郊に在住もしくは勤務している20歳以上の方

②申し込み・登録等

*登録を希望する方は、所定の用紙により、当協会に申し込んでください。申し込みの受付は、随時行っています。

*申し込み後、適当と認めるときは、当協会でもボランティアとして登録します。

③登録の取消し

次のいずれかの場合は、登録の取消しを行います。

- *登録者から辞退の申し入れがあった場合
- *国際交流ボランティアの趣旨に反した場合
- *その他協会において、ボランティアとして不適当と認めた場合

4 ボランティアの利用

①ホームステイ・ホームビジット

高松市民等との交流を通じて、友好親善を図ることを目的とする次のような外国の方の場合に、利用できます。特にホームステイの場合、安い宿舎代わりに利用を希望する人は、利用の対象になりません。

- *当協会が主催・共催または後援する事業で招へいた外国の方
- *国際交流を目的とした非営利団体、機関の紹介を受けた外国の方
- *外国人留学生、研修生
- *その他協会が適当と認めた外国の方

②翻訳・通訳・一般ボランティア活動

次のような場合に、利用できます。

- *当協会が主催・共催または後援する事業
- *国際交流を目的とした非営利団体、機関の実施する事業
- *その他協会が適当と認めた場合

5 利用申し込み・紹介

- ①利用希望者は、所定の用紙により当協会に申し込んでください。
- ②協会は、利用申し込みを適当と認めた場合、登録や利用の条件などを考慮して適当と認める登録者の方と相談のうえ、紹介します。
- ③利用者は利用前日までに協会に来て、必要な事項に関して指示を受けてください。

6 費用の負担

①ホームステイ・ホームビジット

- *受入に伴う基本的な費用（食費・宿泊費等）は原則として、登録者の負担とします。
- *交通費・通信費その他個人的な費用は利用者の負担とします。
- *1週間を超えるホームステイの場合は、原則として利用者が実費を負担するものとします。

②語学ボランティア・一般ボランティア

- *活動中にかかる交通費・食費等の実費は利用者が負担します。
- *利用者にかかる費用は利用者の負担とします。

7 事故などの場合

① ボランティア活動中に万一事故が生じた場合、当協会はその責任を負いませんが、事故が起きた場合、当協会へ次のことを連絡ください。

* 事故日

* 場所

* 事故内容

② 緊急または不測の事態により、紹介した活動が不可能となった場合、当協会および登録者、利用者の両者ともその責任を負いません。

VI 参考資料

1 国際電話について

近年、海外の方との連絡方法は、ソーシャルネットワークや、インターネット通話など多種多様になりました。まず、ここでは電話で海外の方と連絡する方法、国際電話をご紹介します。

■国際ダイヤル通話

直接、外国の電話番号をダイヤルする通話です。最も経済的な通話です。

詳しい電話のかけ方は、こちらのリンクからジャンプしてください。

▽NTT 利用の場合 <http://506506.ntt.com/0033data/howto.html>

▽KDDI 利用の場合 <http://www.001.kddi.com/lineup/index.html>

▽SoftBank 利用の場合 <http://tm.softbank.jp/consumer/international/>

■国際オペレーター通話

KDDI のオペレーターに申し込む通話です。

相手の電話番号と、相手の名前を伝えると、相手が電話口まで出るまでのサービスです。

かけ方料金はこちらのリンクからジャンプしてください。

<http://www.001.kddi.com/lineup/operator/index.html>

[通話の種類]

☆指名通話——話す相手を指定する通話で、相手が電話口に出てくるまでは無料

☆クレジットカードコール——クレジットカードを利用する通話

■インターネット通話

双方のパソコンまたは、スマートフォンでアプリをダウンロードし、登録を済ませていれば、通話が無料になるシステムです。相手が登録を行っていないければ、通話料は発生します。

▽Skype 利用の場合 <http://www.skype.com/ja/>

▽LINE 利用の場合 <http://line.me/ja/>

※国際電話は、利用する会社によって、料金やかけられる国が違います。

また、電話によっては、簡単な手続きが必要な場合があります。詳しいことは、それぞれの会社に問い合わせてください。

2 英文手紙の書き方

■封書

これといった形式というわけではありませんが、一般的な英文手紙の書き方としては、次のとおりです。

ワープロやタイプを使う場合、宛先、起句、本文をいずれも左端に揃えて印字するブロックスタイルをとることが多いようです。

		日	付
宛	先		
起	句		
		本	文
			結
			句
			署
			名

なお、便せんや封筒の形・色などは、それぞれ個人の趣味で選んで結構です。ペン書きの場合は、黒またはブルー・ブラックのインク使用が原則です。また、礼状は「簡単でよいから迅速に出す。」ことが最も大切な心得でしょう。

○日付

アメリカ式では「July 24, 2020」または「July 24th, 2020」、イギリス式では「24 July, 2020」または「24th July, 202」と書きます。

○宛先

一般的には左上に書きますが、本文左下に記すこともあります。

まず相手の名前を書き、次の行には、役職のあるときは役職名を書き、その次の行に住所を書きます。役職名、住所が長いときは、区切りのよいところで切って数行にわたって書きます。

○起句

イギリス式ではコンマ「,」、アメリカ式ではコロン「:」を使うことが多いようです。

相手の名前が分かっているとき

Dear Mr. Smith, Dear Mrs. Smith, Dear Ms. Smith,

相手の名前が分からないとき

Dear Sir, Dear Madam,

親しい友人のとき

Dear Jack, My dear Jack

会社あてのとき

Dear Sirs, Sirs,

*単に Dear Mr., や、フルネームの Dear Mr. Jack Smith, あるいは、Jr. をつける Dr. Mr. Smith Jr., などという書き方はしません。

○本文

起句と本文の間は、1行または2行あけ、本文内の段落の間は、2行あけます。また、時候のあいさつを書く習慣はありませんので、すぐに用件に入ります。

○結句

本文右下（一般書簡）または左下（礼状）に書きます。最初の文字を大文字にし、末尾にコンマをつけます。

Sincerely,

Yours sincerely,

Sincerely yours,

Faithfully,

Yours faithfully,

Faithfully yours,

Truly,

Yours truly

Truly yours,

Respectfully,

Yours respectfully,

Respectfully yours,

} 対応する起句

} Dear Mr. Smith,

} Dear Jack,

} 対応する起句

} Dear Sir,

} Dear Madam, Dear Sirs,

} 対応する起句

} Dear Sirs,

} 目上の人に対して

○署名

必ず署名してください。一般書簡または礼状によって、左右の違いがありますが、必ず結句の下に書きます。また、ワープロやタイプを使う場合、結句と差出人名の行間をあけて打っておき、あとでその間に手書きで署名します。

■はがき

はがきは紙面に限りがありますので、起句の次の行から簡潔に本文を書きます。本文の次の行に結句を、その次の行に差出人名を書いてください。

はがきの裏面に書くスペースがある場合は、通信文は裏面に書き、スペースの足りないときは、上書きの面の左側余白の欄に書きます。

■宛名書き

○差出人の住所、氏名は上側に書く。

- 1行目 差出人の氏名
- 2行目 部屋番号、番地、町名丁目
- 3行目 市町村名、都道府県名（大文字で書く）
- 4行目 郵便番号、国名（大文字で書き、アンダーラインをつける）

○受取人の住所、氏名は中央または右側に書く。

- 1行目 受取人の氏名
- 2行目 住所番号、街路名、部屋番号
- 3行目 都市名、地方名・州名（大文字で書く）、郵便番号
- 4行目 国名（大文字で書き、アンダーラインをつける）

*封筒

○航空便の場合

AIR MAILと朱書きする。（航空使用の封筒の場合は不要）

Koji Yamada 11-63 Ban-cho 1-Chome Takamatsu, KAGAWA 760-0017 <u>JAPAN</u>	切 手
Mr. Jack Smith 1234 Green Street, Apt101 St. Petersburg, FLORIDA 33733 <u>U. S. A</u>	
AIR MAIL（朱書き）	

*はがき

Koji Yamada 11-63 Ban-cho 1-Chome Takamatsu, KAGAWA 760-0017 <u>JAPAN</u>		切 手
Mr. Jack Smith 1234 Green Street, Apt101 St. Petersburg, FLORIDA 33733 <u>U. S. A</u>		
(通信文)		
AIR MAIL（朱書き）		

3 国際郵便について

■配達の種類

○航空便

送り先によって異なりますが、通常、4日から8日で届きます。

航空便で送るときは、「航空便」と朱書きするか、郵便局でスタンプを押してもらってください。そうしないと自動的に船便扱いになります。

○船便

届くまでに20日から80日かかります。料金は航空便3分の1で経済的です。

○SAL便

届くまでに2週間から3週間かかります。料金は航空便より安く、到着は船便より速いという中間タイプです。小包は20kg、印刷物は2kg（書籍は5kg）まで送れます。

○国際ビジネス郵便（EMS）

主要都市への郵送なら1日から2日で届きます。利用には登録が必要ですので、窓口に出してください。

○国際レタックス（国際電子郵便）

郵便ネットワークとファクシミリを組合わせた、最も早い国際郵便です。

☆航空通常郵便物の料金

帯 種類 重量			第1地帯	第2地帯	第3地帯
			アジア、グアム マーシャル ミッドウェイほか	北アメリカ 中央アメリカ オセアニア 中近東、ヨーロッパ	アフリカ 南アメリカ
書状	定形郵便物	25g まで	90 円	110 円	130 円
		50g まで	160 円	190 円	230 円
	定形外郵便物	50g まで	220 円	260 円	300 円
		100g まで	330 円	400 円	480 円
		250g まで	510 円	670 円	860 円
		500g まで	780 円	1,090 円	1,490 円
		1kg まで	1,450 円	2,060 円	2,850 円
		2kg まで	2,150 円	3,410 円	4,990 円
郵便はがき			世界各地あて 70 円均一		
航空書簡			世界各地あて 90 円均一		

*大きさ・重さの制限、所要日数、料金など詳しいことは、郵便局にお問い合わせください。

ウェブで調べる場合はこちら→<http://www.post.japanpost.jp/cgi-charge/>

国際郵便についての問い合わせ先

高松中央郵便局郵便課 (内町 851-5705)

高松南郵便局郵便課 (勅使町 866-4414)

高松東郵便局郵便課 (高松町 841-9200)

4 単位比較表

■温度（気温、体温等）

①華氏を摂氏に換算する場合

$$(\text{華氏}^{\circ}\text{F}-32) \times 5 \div 9 = \text{摂氏}^{\circ}\text{C}$$

<早見表>

① 氏を摂氏に換算する場合

華氏 (°F)	摂氏 (°C)	華氏 (°F)	摂氏 (°C)
212	100	80	26.7
106	41.1	70	21.1
105	40.5	60	15.6
104	40	50	10
103	39.4	40	4.4
102	38.9	32	0
101	38.3	30	-1.1
100	37.8	20	-6.7
99	37.2	10	-12.2
98	36.7	0	-17.8
97	36.1	-10	-23.3
90	32.2	-20	-28.9

②摂氏を華氏に換算する場合

$$\text{摂氏}^{\circ}\text{C} \times 9 \div 5 + 32 = \text{華氏}^{\circ}\text{F}$$

<早見表>

② 摂氏を華氏に換算する場合

華氏 (°F)	摂氏 (°C)	華氏 (°F)	摂氏 (°C)
212	100	68	20
104	40	59	15
102.2	39	50	10
100.4	38	41	5
98.6	37	32	0
96.8	36	23	-5
95	35	14	-10
86	30	5	-15
77	25	-4	-20

■長さ

1 インチ=2.54cm

1 フィート=30.48cm (12 インチ)

1 ヤード=91.44cm (3 フィート)

1 チェーン=20.12m (22 ヤード)

1 マイル=1,609.3m (1,760 ヤード)

1 尺 (チー 中国) =33.3cm (1m=3 尺)

1 里 (リー 中国) =500m (0.5km)

■広さ

1 アール=100 m²

1 ヘクタール=10,000 m² (100 アール)

1 平方ヤード=0.8361 m²

1 エーカー=4,046.9 m²

(10 平方チェーン、4,840 平方ヤード)

1 畝 (ムー 中国) =666.7 m²

(1 ヘクタール=15 畝)

■重さ

1 オンス=28.35g

1 ポンド=453.6g (16 オンス)

1 ブッシェル (英) =28.1kg (62 ポンド)

1 ブッシェル (米) =27.2kg (60 ポンド)

1 斤 (チン 中国) =500g (0.5kg)

■容積

1 ガロン (英) =4.546 リットル

1 ガロン (米) =3.785 リットル

1 ブッシェル (英) =36.37 リットル (8 英ガロン)

1 ブッシェル (米) =35.24 リットル
(9.31 米ガロン)

1 升 (ショー 中国) =1 リットル